



何を見ているのかな？

洋服屋さんへ行って、スカートなどを手に取り、その肌触りなどを触れて確かめたり、果物屋さんへ行ってりんごに触れ、その重さ、熟れ具合などを手で確かめることもない生活なので「手」もないのと同じです。



図1

まず図1を見てください。寝たきりの人の図です。どこへも行くこともないので、当然「足」はないのと同じです。それで描かれていません。

寝たきりの人への接し方

理事長 清水 允熙

駅の雑踏、店先の魚、野菜、雑貨などを目にするものもないので「目」も描かれていません。店先で魚、野菜、パンなどの匂いを嗅ぐものもないので「鼻」も描かれていません。

それらの場所での人々のやりとりの声も聞いたりしていませんので「耳」も描かれていません。

要するに部屋の中で寝たきりの生活をしているのでは、その人のせつかくの目、耳、鼻、手足は身体についていることの意味を失くしてしまいます。したがって寝たきりの方は図1のような存在で生活しているのです。「口」の部分が小さく描かれているのは、食物を摂取することにだけでも口が使われているので、その分小さく描いているのです。

では図に目、耳、鼻、口、手足を描き入れるにはどうしたらよいでしょう。この描き入れ行為こそが、寝たきりの方への

配慮であり、介護なのです。

では「目」を描き入れるにはどうしたらよいでしょう。目には目が受け持つ使命があります。その使命を全うさせてあげたとき、描き入れられることに「目」は素直に応じることでしよう。以下、それぞれの使命について述べましょう。

《目の使命》

「目」はもともと「口」と同じです。「口」が食物を食べるように「目」も次のようなものを見ることにより食べていなければいけないのです。

太陽の光、子供たち、孫、仲間、自然（山、川、海、雲、星、月、花、鳥など）、街、魚屋、八百屋、米屋、食物（パン、米、野菜、肉、魚など）、現金、預金通帳、新聞、テレビなどです。ぜひ外へ連れ出してあげて、できるだけいろいろな物や出来事を「目」に食べ

させてあげてください。少なくとも太陽の光の下には出してあげてください。すると寝たきりではない健康な「足」があるかのような生活になるのです。

次に「目」は夢を見るものです。みんな夢・目的を話し合い、協力して実現をはかりましょう。私たちは鼻で夢は見ないのです。また「目」は優しさ・安心を探すものです。寝たきりの人の周囲に優しさ・安心が山積みになるようにしてあげてください。その結果、図1は次の図2となるのです。



図2

《耳の使命》

「耳」は危険を避け、安心を聞き分ける仕事をします。とくに「夜」を危険な闇から救い、安心のできるもの、楽し

いものとしめます。楽しい団らの夜を持つことが「耳」の使命です。次に「耳」は私たちに上手に運動させる仕事を持っています。運動をさせなければいけません。少なくとも立ち

上がらせ、バランスをとらせることぐらひはさせてあげなければ「耳」は悲しむでしょう。また「耳」は家族や仲間の楽しい声、優しい話、夢の息つかい、街の騒音、生活の音、ニュースなどを聞きたがります。聞かせてあげましょう。私たちがそのための「足」になつてあげましょう。

これらを行なつてあげることにより「耳」を描き入れることができます。図1は図3となります。



図3

《鼻の使命》

「鼻」はいろいろな種類の食物の違いを識別するためにあります。いろいろな食べ物を食べさせてあげなければ、ふてくされて「鼻」は横になってしまうでしょう。「鼻」は真っ直ぐでなければ気味の悪い雰囲気が出てしまいます。そうなるは大変です。

また「鼻」は清潔や芳香を求め、汚れや腐敗を嫌います。寝具、部屋などを清潔な世界へ運んであげましょう。

図1は図4となります。



図4

何日間かにわたり目、耳、鼻についての配慮がなされれば、そのトータルとして図1は図5となるでしょう。



図5

《口の使命》

「口」は食物を摂るための入り口です。しかし「口」は出口でもあるのです。

食物は「口」から入り、便秘となつて排泄されなければ「便秘」という症状を引き起こし、私たちは苦しみを味わいます。

同じように、目、耳、鼻から取り入れられた情報やそれによる感情は「口」から排泄されます。この排泄がうまくいかないと「感情の便秘」を引き起こし、私たちの心は弱まります。

「口」は情報の出口です。話させてあげてください。聞いてあげてください。また入り口としての「口」には美味しいもの、好きなものは

を摂らせてあげてください。食べればいい程度の食事と味では「口」は嫌味たらたら言葉でいつばいになってしまうでしょう。

次に「口」は喜怒哀楽を表現します。楽しくて笑うようにしてあげてください。嬉しくて嬉し泣きをするくらいにしてあげてください。図1は図6となります。



図6

《手の使命》

「手」はいろいろな道具などを使用する役割を持っています。何かを作る義務を持っています。作ることをしなければ「手」は失業状態に陥ってしまいます。「手」は働き手にさせておいてあげましょう。

次に「手」は「手」になることよつて、二本の足で立つことを私たちに可能とさせました。寝たきりの人であっても、短時間の起立をさせてあげないと「手」の過去の功績を無視したことになります。手に失礼です。

また「手」は引いてもらつても、仲間についていくためのものなのです。「孤独は嫌だ」と手はすぐ言います。私たちが私たちの仲間として寝たきりの人の「手」を引っ張つてあげてあげましょう。置いてきぼりの孤独な寝たきりの人にしないようにしましょう。

これらの行動によつて図1は図7となります。



図7

《足の使命》

「足」は楽しい場所、素晴らしい場所へ行くためにあります。仲間のところへ行くためにあります。寝たきりの人のために、楽しいこと、素晴らしいことを持つていつてあげましょう。仲間が、子供たちが寝たきりの人のまわりへ集まってきたあげましょう。

「足」はまた、好きなところへは近寄り、嫌なところからは去るといふことを可能にしています。「好き嫌いを表現すること」を可能とする使命を持っています。寝たきりの人に「何でも我慢」を要求しては、その人の心まで寝たきりになってしまうでしょう。「好き」「嫌い」を言わせてあげてください。寝たきりの人に健康な「足」があるのと同じことになるでしょう。

「足」はまた、目の位置を高くする仕事を持っています。

赤ちゃんが横になつているとき目の高さと同じ高さの時、目の高さでは世間への認識に異なる違いができます。つまり視野が広がるのです。寝たきりの人の視野が広がるように働きかけてあげましょう。私たちが「足」の代わりになつてあげましょう。

そうすることによって図1は次のような図8となつて完成するでしょう。つまり寝たきりの人、図1を健康な人の状態・図8とすることができたことになるのです。

さらに余力があれば、髪、服についても考えてあげてください。靴、アクセサリもつけてあげてください。



図8

職員募集

優しい仲間たちと一緒に
思いやり溢れるケアを目指しませんか？

- ・看護師（正・准）
- ・事務員（受付）
- ・介護士（介護福祉士）
- ・事務員（事務当直）
- ・認知症症状対応チーム（ケア職員）



就業時間：8：30～17：00（休憩50分）

休日：月10日（年間119日）

勤務地：静岡県御殿場市中畑1932（御殿場駅より送迎バス有り）

問合せ先：0550-89-5671 事務長（牧ヶ谷^{まきがや}）

短時間勤務、夜勤のみも応相談。

見学のみもOK！まずはお電話ください。

パワー系精神科とよばれて

院長 西村行徳

令和8年2月17日より、施設長・院長に着任いたしました西村行徳（ゆくのり）と申します。

私が医師を志したきっかけは、実はとても「軽い」ものでした。

高校生のころ、クラスで国公立大学の医学部受験がちょっととしたブームになり、深い使命感があったわけではなく「みんな受けるなら、自分も受けてみるか」という、勢いとノリのような気持ちが出発点でした。それでも勉強を続けるうちに、医学の奥行や、人の身体と心の不思議さに惹かれ「この世界をもっと

知りたい」という思いが自然と芽生えていきました。

大学では、学業と同じくらい部活に熱中しました。柔道とアイスホッケーという、ハードな二つの競技を掛け持ちしていたのですが、実は私は身長が低く、体格に恵まれているタイプではありません。どちらかといえば、向かないほうです。それでも、なぜか身体だけは妙に頑丈で、多少の衝撃や打撲ではびくともしない性質でした。仲間からは「明るさとポジティブさだけで競技を乗り切っている」と笑われつつ練習に明け暮れた日々は、今でも大切な思い出です。

研修医になり、さまざま

診療科を周るなかで、私は精神科に強い関心を抱くようになりました。検査値だけでは測れない苦しみがあり、言葉

にならない思いが症状として現れることもある。患者さんの語る一つひとつの言葉の奥にある背景を想像しながら向き合うことに深い魅力を感じました。

ところが、いざ進路を決める段階で声をかけてくれたのは、整形外科や消化器外科、産婦人科と外科系ばかりでした。学生時代のスポーツの印象が強かったのか「外科向き」とみられたようです。ありがたいお話ではありましたが、志望していた精神科からはなかなか誘いがなく、当時は「自分は精神科医には向いていないのか」と落胆しました。

それでも精神科への思いは揺らぎませんでした。患者さんの快復には時間がかかることもありますが、対話を重ねる中で少しずつ表情が変わっ

ていく瞬間に立ち会えることは、何ものにも代えがたい喜びです。身体が頑丈で明るい性格だからか、冗談めかして「パワー系精神科医」と呼ばれることもあります。もちろん力任せの医療をしているわけではありません。むしろ患者さんのペースにあわせてゆつくり伴走する姿勢こそ、私が大切に行っている医療の形です。

医師として21年目を迎えた今、高校時代の「流行」から始まった道のりが、結果として自分の天職に繋がったのだと感じています。

これからも、悩みや不安を抱える方が安心して相談できる場所であり続けられるよう、明るさと頑丈さを武器に、日々の診療に向き合っていきたいと思えます。

一人ひとりに寄り添い、『優しい人』を目指して

看護師 前田 寿江

私は看護師として、当施設へ入職してから丸二年が経ちました。日々の仕事の中で大切にしていることは、利用者様一人ひとりと向き合い、寄り添うことです。

今、目の前に見えている言動だけではなく、これまでどのような人生を歩み、どのような生活を送ってこられたのか、その方の生活背景や普段の様子を理解しようとすることを心がけています。

利用者様の中には、自分の気持ちをうまく言葉にできない方や、認知症の症状により不安や混乱が強くなる方もいらっしゃると思います。そのため私は表情や声の調子、しぐさなど、小さな変化にも気付ける

ように意識しています。こちらの声かけ一つ、関わり方一つで、安心した表情を見せてくださることもあれば、逆に不安を強めてしまうこともあります。

だからこそ相手の立場に立ち、丁寧に関わることの大切さを日々感じています。利用者様が少しでも穏やかに過ごせるよう支援したいと思っています。

また、より良いケアのためには、職員同士の情報共有も欠かせません。「こんな言葉をかけたら安心されていた」「このように対応すると穏やかに過ごせていた」といった日々の気付きを共有することで、利用者様にとって安心できる関わりに繋がると感じています。看護師だけでなく、介護職員をはじめ多職種が連携しながら支えていくことが、この施設の大きな力だと思います。

私がこの職場を選んだ理由の一つは、理念である「優しい人」という言葉に惹かれたからです。相手を尊重し、気持ちに寄り添い、その人らしさを大切にする姿勢が、この言葉には込められていると感じました。実際に働く中でも、利用者様に対してだけでなく、職員同士も声を掛け合いながら支え合う温かい雰囲気があります。

そのような環境の中で働くことに感謝しながら、私自身も「優しい人」に近づけるよう努めていきたいと思っています。

これからも、一人ひとりの思いや生活背景に目を向けながら、その方に合った関わりを大切にし、利用者様とご家族に安心していただける看護を続けていきたいと思っています。また、日々の関わりの中で小さな変化や思いを丁寧に

に受け止め、多職種と連携しながら、その方らしく穏やかに過ごしていただけるよう支援していきたいです。

勉強会



当施設では職員向けの勉強会に力を入れております。法定研修に加え、看護部長による参加型集合研修を毎月開催しています。利用者様の対応へ活かせるよう今後も精進してまいります。



憧れの介護の仕事に 就いて

介護職員 菊池 奈美

皆さま初めまして。一階療養棟介護士の菊池奈美と申します。

私は、約三十年勤めた工業用ゴム製品製造会社を早期定年退職し、初めて介護業界に入りました。ここ富士山麓病院介護医療院に入職して五月で十一カ月となります。

若い頃より、医療現場や介護施設で活き活きと働く看護師さん・介護士さんに憧れを抱いており、こうして今、介護の仕事に携われることに日々喜びを感じています。

富士山麓病院介護医療院では、朝から「おはようございます」「ありがとうございます」など「お疲れさまです」などの声飛び交います。職員全員が明るく優しく、礼儀正し

い方々だと感じます。私が勤務している一階療養棟も朝から活気に溢れ、職員の明るい声が響きます。時々利用者様の歌声も聞こえてきて、職場に来ると元氣と使命感が湧いてきます。

日々の各業務も分担・仕組み化されており、まるでレールのバトンを渡すように業務が円滑に回ります。みんなが自分の後工程の方のことを考えて仕事をしているからだと思います。利用者様の毎日の体調の変化に合わせた業務内容の変更も連携が取れていて、問題は一人で抱え込まずにみんなで相談し助け合う素晴らしい職場です。

私は介護に携わるために、介護職員初任者研修と介護福祉士実務者研修を修了して入職したのですが、実際の現場では、介護技術が全く出来ない状態でした。毎日マンツーマンで正確且つ丁寧な業務をご指導くださった教育係の先

輩・上司や職場の皆さまに本当に感謝しています。ありがとうございます。

また利用者様から学ぶこともたくさんあります。ある女性利用者様がベッドに端坐位で腰掛けているとき、体が斜めに傾いていたため「○○さん、体が傾いていますよ」と言うのが好きなの」とにっこり笑って冗談を返してくれたときは、自分の言い方を反省し、体が痛くて傾いてしまっているのに冗談で返してくださる利用者様の心の広さとお人柄に感動し、その方のような人間になりたい、と思いました。

また、ある男性利用者様のお部屋の窓を夕方施錠に行き、カーテンを閉め電気を点けると「まだお日様の光があるのに電気を点けるなんてもったいない。パチが当たるよ。」とおっしゃったときには、確かにその通りだな。自然のありがたみを忘れていたかもし

れない。人生の先輩の言葉は大切だなと感じました。

介護士としても、人間としても、まだまだ未熟ですが、私が人生を通して目標としている『話した人を笑顔にする』を日々実践できるように、思いやりと尊敬の気持ちを持って人に接し、利用者様の日常生活の場でもある職場を安全・安心で潤いのあるものにするよう、日々経験と研鑽を積んでまいります。

いずれは先輩方のような介護福祉士になりたいと思っています。

皆さま今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



求められる役割

地域連携室 牛嶋 尚美



はじめまして。私は地域連携室に所属しております。牛嶋尚美と申します。今回新聞の執筆依頼を受け、改めて多くの人に支えられていること、多職種との連携、ワンチームで仕事をさせていただいていることを感じ、感謝の気持ちでいっぱいでございます。

私は、入職前の仕事で関わりのあるご家族から「富士山麓病院はすごくよかったです。職員の皆さんもとても親切で本当によかったです」と聞いておりました。また、パンフレットの中の「優しいひと」の12項目についても写真を撮らせていただき、何気なく以前の仕事にも活用していました。

今になって考えてみると、

人の縁というのは偶然ではなく必然だったのかもしれないと、大変意味深い経験をしたように感じます。

現在は、ケースワーカーとして勤務しております。私は、認知症に関することで困ったことがあれば、スピード感を持って対応するように心掛けております。そして当施設が認知症に対して、どのように取り組んでいるか認知症の方への対応方法の必要性の説明なども行っております。各機関と連携し、外来患者様、ご家族様が安心して治療を受けていただけるように、できる限りご家族に寄り添いながら、環境づくりのお手伝いもさせていただいております。

当施設には数十年というキャリアを持つ職員が多く勤務しており、それぞれの職種を理解したうえで協力をしながら、利用者様のケアを行っ

ているため、利用者様が安心して生活していらっしゃると思います。

当施設では、一人ひとりの命を大切にし、お亡くなりになる最期の日まで寄り添うターミナルケアにも力を入れており、残りの時間を大切な家族と質の良い時間を過ごしていただけるように、協力を整えています。

地域連携室では患者様とご家族が仲良くいられるように、住み慣れた地域と繋がれるように、孤独、不安、心配から楽しい、嬉しい安心した気持ちになれるようにと考えて、架け橋となるよう支援しています。

ここでの業務においては、利用者様、ご家族様のために仕事をしております。私は利用者様との会話のなかで「ありがとう」と言葉掛けするよう意識しております。

認知症の方やそのご家族に

とっては、気持ちを受け止めてくれる人がいるだけで、不安を安心、希望に変えてくれる言葉になるのではないかと思うからです。

そして認知症利用者様からの思いがけない反応は、私にとつての贈り物になります。超高齢化社会において、今後増加する「認知症」は「隠すべき恥」から「地域で支え合う日常へ」と変わりつつあります。当施設での認知症ケアの重要性についても、ご理解をいただけると幸いです。

今後も更に、専門知識を深め、患者様、ご家族様、すべての方にここに来て良かった、この人達に出会えて良かったと思っただけでなく、そして認知症専門施設として地域に貢献できるように日々努力を続けていきたいと考えております。

レクリエーションフォトギャラリー



うわあ！おひなさま♡



♪ピアノの音色が素敵です♪



満開の桜の下で



お花見のあとはおやつタイム♡



大きくなあれ



依知川先生のコンサートはいつも大盛況！

楽史エッセイ

⑦

もの言はざれば

①

内藤 真治

ことわざ辞典に「もの言はざれば腹ふくるる」とあります。「不平不満や怒りを我慢していると、ストレスがたまって体によくない」ということでしょう。

いつの時代にも人々は社会や政治に対する不満、怒りをいろいろな形で表現してきました。

誰が書いたかわからないような方法は、昔も今も「落書」。最も有名なのは「二条河原落書」、700年近く昔のことですが、ほとんどの日本史教科書に載っています。

1333（建武元）年に京都鴨川の二条河原に掲げられたもので、「建武年間記」という本に記録されています。

此比都ニハヤル物、夜討強盗謀論旨、召人早馬虚騒動、生頸還俗自由出家、……と始まります。

謀論旨とは偽りの天皇の命

令書、召人は囚人、早馬は急ぎの使者、生頸は売春婦、還俗は僧侶から俗人に戻ること、自由出家とは正規の手続き抜きで勝手に出家することです。

引用したのは最初の2行だけで、全体はこの22倍、44行にもなる長文でした。

鎌倉幕府滅亡後に成立した後醍醐天皇の建武政権（1333〜36）の混乱ぶりを痛烈に皮肉ったものですが、全文七五調の見事な文章には中国の書物の影響も見られ、僧侶か貴族か、かなりの教養人が書いたものと考えられています。「史上最高の落書」と言えるでしょう。

建武政権はわずか3年で崩壊、足利尊氏が武家政治を再興しますが（室町幕府）、後醍醐天皇は吉野（現・奈良県南部）に逃れて正統を主張、以後半世紀以上にわたって日本には二人の天皇が存在するという時代が続ききました（南北朝時代）。

代）。

57年後、3代將軍足利義満の時代に南北朝合一が実現しますが、当初の約束だった「両統並立」（北朝と南朝）は吉野が交代で皇位に就く）は実現せず、以後の皇位は現在に至るまで北朝が継承しています。「力こそ正義」でしょうか。

戦後の混乱の中で「我こそは正統の皇位継承者」と主張する人物が出て大きな話題になりました（熊沢天皇）。南朝の子孫と称する彼（たしか雑貨屋の経営者で、店員を「侍従」と呼んでいた）の所持する古文書などは歴史学者が一応調べたようですが、もちろん「天皇の地位は熊沢氏に交代」とはなりませんでした。

さて時代は一挙に下って昭和十年代の公衆便所。「トイレ」と言っただけです。野球のストライクを「よし」、ボールを「だめ」と言った時代、アナウンサーは「放送員」でしたが、ラジオはなぜか最後までラジオ。ラジオを漢字に置

き換えるとしたら一体どうなるでしょう。

とにかく町の公衆便所などに「英機撃墜」という落書が見られたのです。英機は東条英機内閣総理大臣兼陸軍大臣兼軍需大臣兼陸軍参謀総長、独裁的な権力者の名前です。

対米英戦はハワイ真珠湾攻撃の勝利を喜んでいましたが、やがて連合軍の反攻で戦局は逆転、東条首相の戦争指導に批判や不満が出てきました。しかし言論の自由はなく、とりわけ権力者への批判など許されなかった時代、庶民は便所の落書きなどであらうつぶんをはらしたのです。

一銭や五銭札など少額紙幣の裏に書く方法もありました（貴重な金属を使う硬貨はない）。

捕まった時は「英機（英国の飛行機）を撃ち落とせ」と言っただけが面白い？ と逃げたつもりでしょう。政府や軍部はいつも「米英撃滅」でしたから。ただし日本本土への空襲はすべて米機の来襲で、英機は一機たりとも来ていません。（つづく）



仕事を終えての休日。心と体をリフレッシュしてほっとする時間が楽しみである。



とっておきの休日を♥

CACチーム

大胡田 由美

私はカフェで過ごす時間が大好きだ。行ってみたくてカフェを見つけると友を誘い、ドライブをしながらまったり過ごす。趣味の話で盛り上がり、時には自分の未来の話も交えてみたり。そしてまた会う約束をして。

一年前に初めて訪れたカフェでのこと。その日は大雨でお客さんが私達以外はいなかった。普段は駐車場が満車で中々入ることができないので「ラッキー！」と感じ入店した。

店主もとても気さくな方で「大雨だから誰も来ないと思っていました」と来店を歓迎してくれた。私はカフェ



ノを頼み、もう一人はオレソングジュース。運ばれてきたカップチーノを見ると『雨ガエルのラテアート』が！可愛さと店主の心配りを感じ、お互いに頬が緩み笑顔になる。

とっておきの休日になるように素敵なお店を探す楽しさや、訪れた先の店主との心温まる出会い、親しい友との時間は私の休日を彩りませてくれる大切な時間だ。

編集後記

このほど清水理事長の卒寿を機に長年兼務してきた院長職を西村行徳先生に引き継ぐことになりました。

2月の就任でしたが、本紙前号（3月3日発行）に間に合わなかったため、遅ればせながら紙面での紹介です。

型通りの就任挨拶にとどまらず、人間味あふれる自己紹介の文章を書いてくださいました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今号では看護、介護職員だけでなく、地域連携室に所属するケースワーカーから当施設と外部との関わりについても報告してもらっています。

今年も「酷暑」の到来が予想されていますが、みなさまのご健勝をお祈りしつつ、新聞179号をお届けします。

（内藤 真治）

